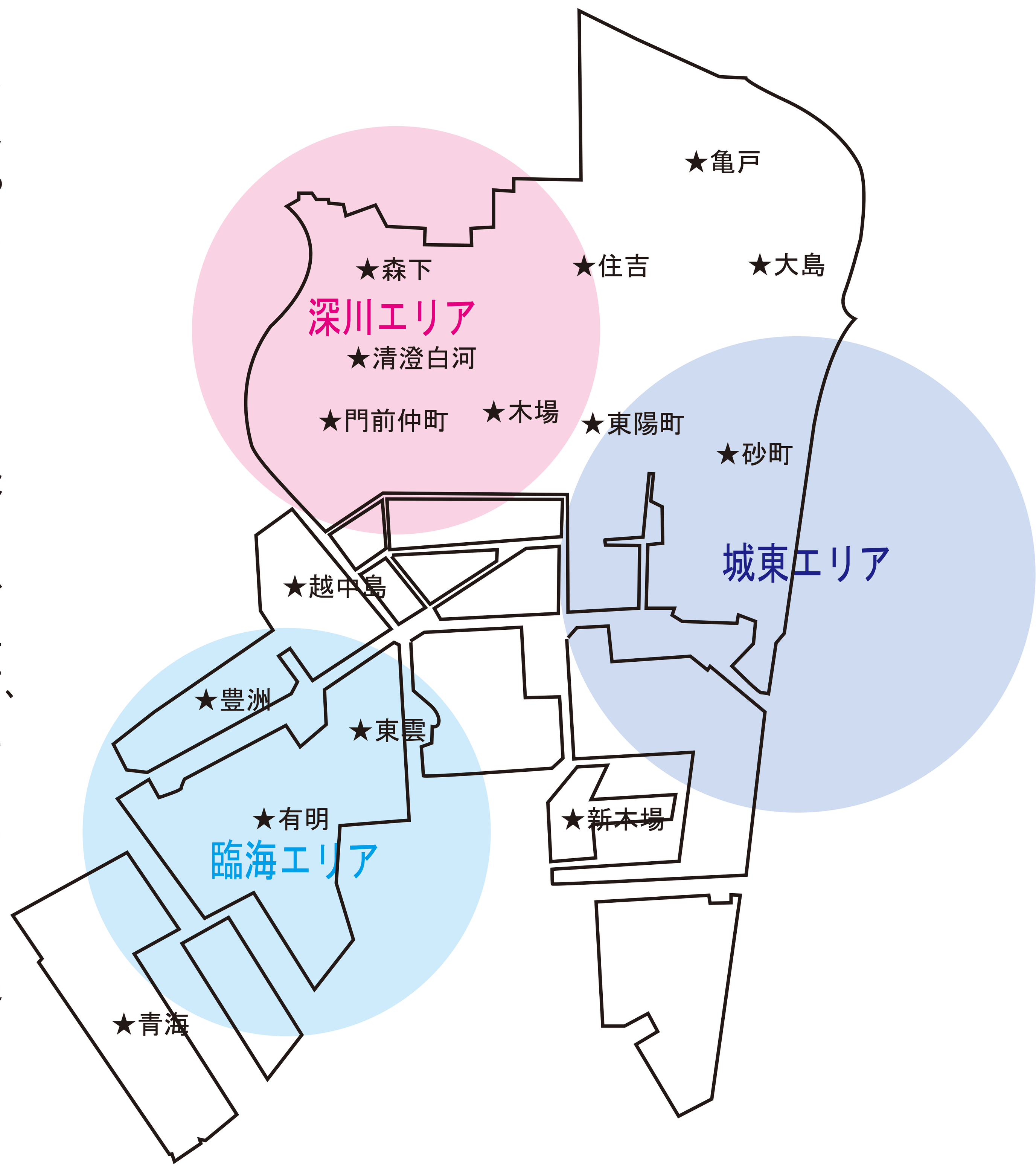
「水辺のまち」を辿れば水彩都市・江東の活き生きした暮らしと歴史が見えてきます。

和船で大横川の桜見物（越中島橋を望む）

晴海運河の旧貯木場から隅田川の相生橋を望む。

水彩都市江東区は、江戸時代からの縦横に巡らした掘割（内部河川）を中心に発展してきました。
この水辺には多彩な景観が数多くあります。このパネルは歴史とうるおいのある水辺の街を再発見し、水辺アメニティ（心地よい場所、美しい景観）に関心をもってもらい、愛着のある街に、そして環境保全に役立つ「きっかけづくり」のマップです。
また江東区を訪れる方々の手助けになる「アメニティマップ」の水辺版でもあります。

江東区は内部河川・運河が多く、歴史的にも重要な河川が各所にあります。高度成長期の地盤沈下による護岸工事により、水辺との距離が遠くなり、汚れもひどくなってしまいました。しかし、下水道の普及、工場排水の処理等により水質もよくなりました。そして、水門や外郭堤防による治水で内部河川の水位が一定に保たれるようになり、3層重ねにもなっていた護岸を低く削り、区内の親水公園や塩の道（小名木川）等の整備が進み、水辺との距離が近くなってきました。そして、四季おりおりの花や鳥、昆虫等もいろどりをそえて徐々に水辺が再生されています。江東区の水辺を知り、再発見するのにきっとこの水辺のアメニティマップがお役に立つはずです。



江東エコリーダーの会